

JALOS ニュース

Japan Lubricating Oil Society

2014 3月号

平成 24 年度 PRTR データの公表等について

経済産業省と環境省は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）」に基づき、事業者から届出のあった平成 24 年度の化学物質の排出量・移動量等について集計するとともに、届出対象外の排出量の推計を行い、その結果を公表しました。以下にその概要（化管法制定以来 12 回目の公表）をお知らせいたします。

平成 24 年度の届出事業所数は 36,504 事業所で、届け出られた排出量 162 千トン（対前年度比 6.9%減少）と移動量 219 千トン（対前年度比 2.8%減少）の合計は 381 千トン（対前年度比 4.6%減少）となりました。なお、平成 20 年 11 月の化管法施行令の改正により、平成 22 年度 PRTR データの公表から、対象化学物質（第一種指定化学物質）は従来の 354 物質から 462 物質に変更されるとともに、対象業種に医療業が追加されています。

1. 排出量・移動量の届出状況

業種別届出状況は表 1 のとおりです。石油製品・石炭製品製造業については、届出事業所数では 645 事業所で平成 23 年度の 519 事業所から増加し、順位は 46 業種中 11 位から 12 位となりました。一方、届出物質種類数では 114 で平成 23 年度の 111 から若干増加し、化学工業（433）、プラスチック製品製造業（163）、電気機械器具製造業（121）、窯業・土石製品製造業（115）に次いで 5 位と同じ順位となっています。

目次

- | | |
|--|--|
| 1. 平成 24 年度 PRTR データの公表等について | 5. 潤滑油需給統計 |
| 2. クルマのオイルに関するアンケート結果について | 6. 平成 26 年経済センサス - 基礎調査及び商業統計調査の実施について |
| 3. JALOS 技術講習会「入門コース・潤滑油の基礎知識」開催のご案内 | 7. 協会の動き |
| 4. JALOS 技術講習会「初級コース 試験・分析方法の体験研修」開催のご案内 | 8. 今後の予定 |

一般社団法人 潤滑油協会

URL <http://www.jalos.or.jp/>

表 1. 業種別にみた届出状況

業種	届出 事業所数	届出物質 種類数	業種	届出 事業所数	届出物質 種類数
金属鉱業	16	33	武器製造業	7	18
原油・天然ガス鉱業	30	34	その他の製造業	96	48
食料品製造業	466	54	電気業	267	63
飲料・たばこ・飼料製造業	138	26	ガス業	33	11
繊維工業	178	66	熱供給業	14	9
衣服・その他の繊維製品製造業	28	20	下水道業	2,013	38
木材・木製品製造業	208	33	鉄道業	53	19
家具・装備品製造業	93	25	倉庫業	130	74
パルプ・紙・紙加工品製造業	439	88	石油卸売業	508	14
出版・印刷・同関連産業	344	55	鉄スクラップ卸売業	9	7
化学工業	2,355	433	自動車卸売業	7	7
石油製品・石炭製品製造業	645	114	燃料小売業	16,689	17
プラスチック製品製造業	1,097	163	洗濯業	162	12
ゴム製品製造業	317	98	写真業	2	1
なめし革・同製品・毛皮製造業	26	19	自動車整備業	185	10
窯業・土石製品製造業	580	115	機械修理業	34	25
鉄鋼業	386	72	商品検査業	33	11
非鉄金属製造業	561	109	計量証明業	40	23
金属製品製造業	1,838	86	一般廃棄物処理業	1,836	51
一般機械器具製造業	824	86	産業廃棄物処分量	485	69
電気機械器具製造業	1,377	121	医療業	131	11
輸送用機械器具製造業	1,180	109	高等教育機関	136	13
精密機械器具製造業	238	52	自然科学研究所	270	65
			合計	36,504	436

2. 平成 24 年度及びこれまでの届出状況

平成 24 年度までの集計結果を以下に示します。

1) 届出排出量・移動量

届出排出量・移動量の経年変化を図 1 に示します。

平成 24 年度は、全対象化学物質の総届出排出量・移動量は前年度と比較して減少しました。化管法施行令改正の前後で継続して届出対象物質として指定された物質（以下「継続物質」という。）276 物質のうち平成 24 年度分として届出があった 265 物質 を対象として集計した総届出排出量・移動量も 342 千トンと、前年度と比較して 4.3%減少しました。なお、追加対象化学物質の総届出排出量・移動量は 39 千トンでした。

また、継続物質の総排出量は 147 千トン（同比 6.9%減少）、総移動量は 195 千トン（同比 2.2%減少）となっています。

（注）対象化学物質の見直しに伴うデータの扱いについて

第一種指定化学物質 462 物質のうち、化管法施行令の改正により第一種指定化学物質になった

186 物質を「新規対象化学物質」、政令改正の前後で継続して第一種指定化学物質として指定されている 276 物質を「継続物質」として扱う。また、政令改正前の第一種指定化学物質 354 物質のうち、政令改正により第一種指定化学物質から外れた 73 物質を「削除物質」とする。

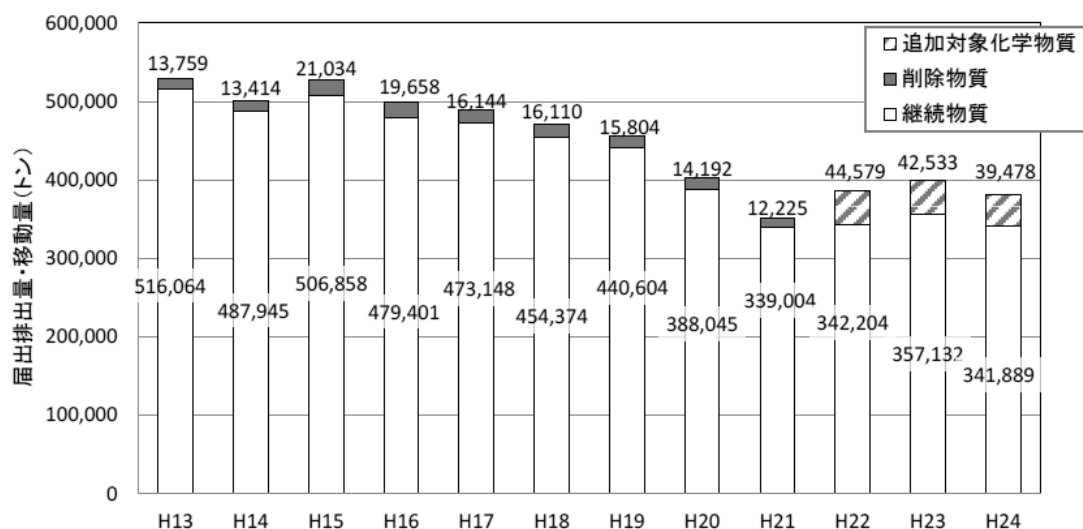


図 1. 届出排出量・移動量の経年変化

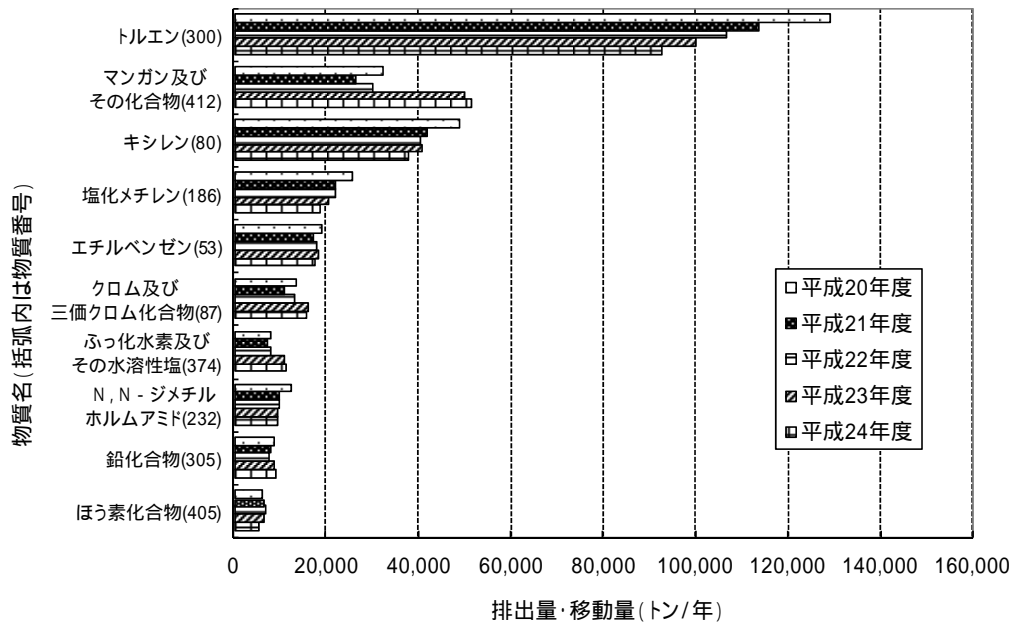
2) 届出排出量・移動量の多い物質

届出排出量・移動量に関する平成 20 年度から平成 24 年度までの上位 10 物質について図 2 に示します。上位 10 物質の構成は前年度と同じとなっています。上位 10 物質の合計は 269 千トンで総届出排出量・移動量 342 千トンの 78.6%に当たります。

届出排出量・移動量の多い上位 5 物質は、合成原料や溶剤として幅広く用いられるトルエンが 92.6 千トンで最も多く、全物質の合計の 27.1%でした。ついで、特殊鋼・電池などに用いられるマンガン及びその化合物が 51.5 千トン（全物質合計の 15.1%）、合成原料や溶剤として用いられるキシレンが 37.9 千トン（全物質合計の 11.1%）、金属洗浄などに用いられる塩化メチレンが 18.6 千トン（全物質合計の 5.4%）、合成原料や溶剤などに用いられるエチルベンゼンが 17.6 千トン（全物質合計の 5.1%）の順となっています。

また、平成 20 年度から平成 24 年度までの公共用水域への届出排出量上位 10 物質について図 3 に示します。昨年度 6 番目の N,N-ジメチルホルムアミド、昨年度 10 番目のアセトアルデヒドに替わり、5 番目にチオ尿素、10 番目にモリブデン及びその化合物が入っています。また、上位 4 位及び 6 番目から 9 番目までの物質は昨年度と同じですが、順位が入れ替わっています。上位 10 物質の合計は 6.6 千トンで、公共用水域への総届出排出量 7.4 千トンの 88.9%に当たります。

公共用水域への届出排出量の多い上位 5 物質は、ほう素化合物が 2.5 千トンで最も多く、全物質の合計の 34.2%でした。ついで、ふっ化水素及びその水溶性塩が 2.0 千トン（全物質合計の 26.8%）、マンガン及びその化合物が 0.7 千トン（全物質合計の 10.1%）、亜鉛の水溶性化合物が 0.6 千トン（全物質合計の 8.2%）、チオ尿素が 0.2 千トン（全物質合計の 2.0%）の順となっています。

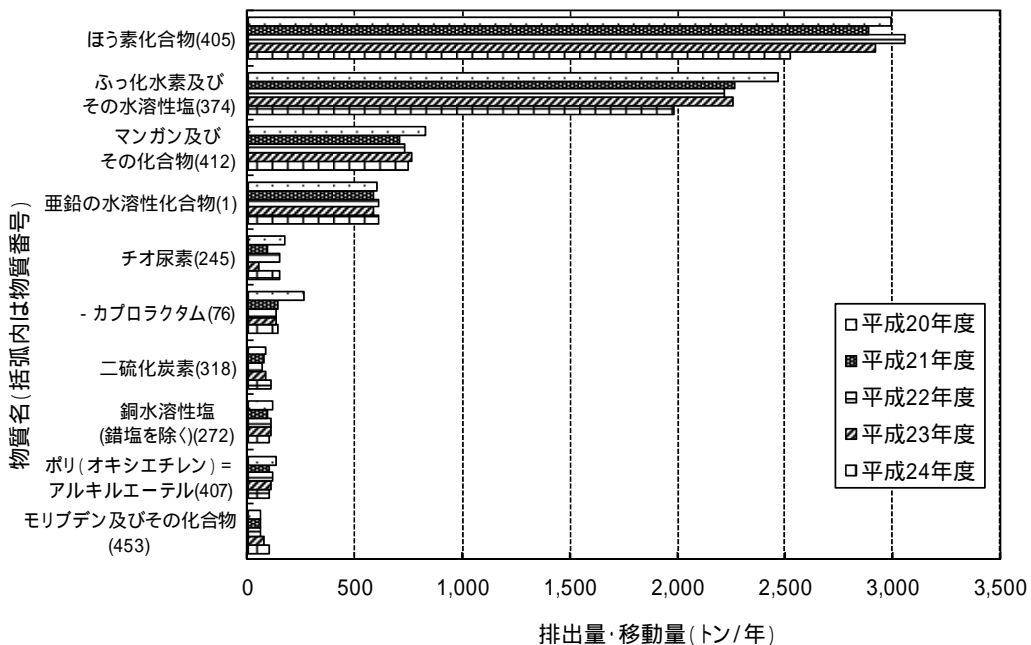


(参考値) 平成 22 年度から追加された対象化学物質のうち届出排出量・移動量の上位 2 物質：ノルマル - ヘキサ
ン：14,863 トン/年、塩化第二鉄：9,664 トン/年

(注 1) 「鉛化合物」の平成 21 年度までの届出排出量は「鉛及びその化合物」のデータを示す。

(注 2) 「ほう素化合物」の平成 21 年度までの届出排出量は「ほう素及びその化合物」のデータを示す。

図 2. 平成 20 年度から平成 24 年度までの届出排出量・移動量上位 10 物質の状況



(参考値) 平成 22 年度から追加された対象化学物質のうち公共用水域への排出量が最も多い物質：N, N - ジメチルアセトアミド：124 トン/年

(注 1) 「ほう素化合物」の平成 21 年度までの届出排出量は「ほう素及びその化合物」のデータを示す。

図 3. 平成 20 年度から平成 24 年度までの公共用水域への届出排出量上位 10 物質の状況

平成 24 年度の集計結果の詳細については下記のホームページをご参照ください。

- ・ 経済産業省：
http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/law/index.html
- ・ 環境省：
<https://www.env.go.jp/chemi/prtr/risk0.html>

クルマのオイルに関するアンケート結果について

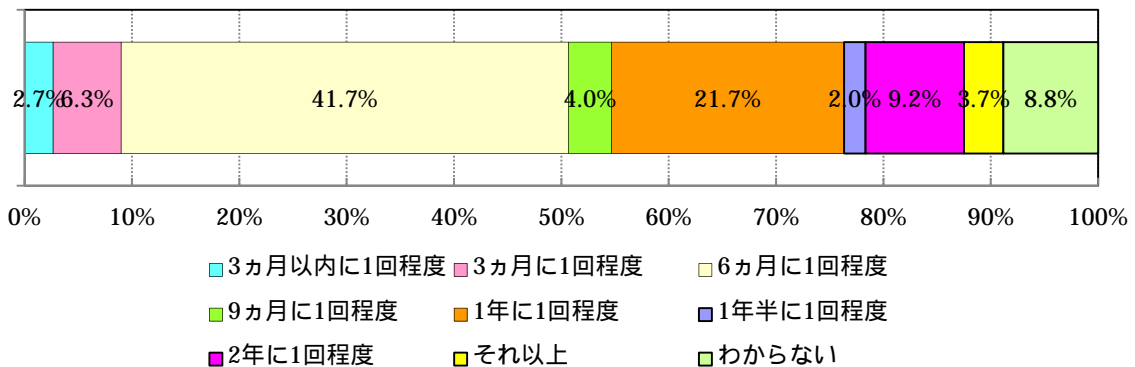
潤滑油環境対策事業の省燃費エンジン油の普及促進事業において、クルマのオイルに関するアンケートを実施しましたのでその結果の一部を報告します。

アンケートは、一般消費者 600 人を対象にエンジン油についての調査を実施した。調査の概要を表 1 に示し、調査結果を以下に示す。

表 1. アンケート調査概要

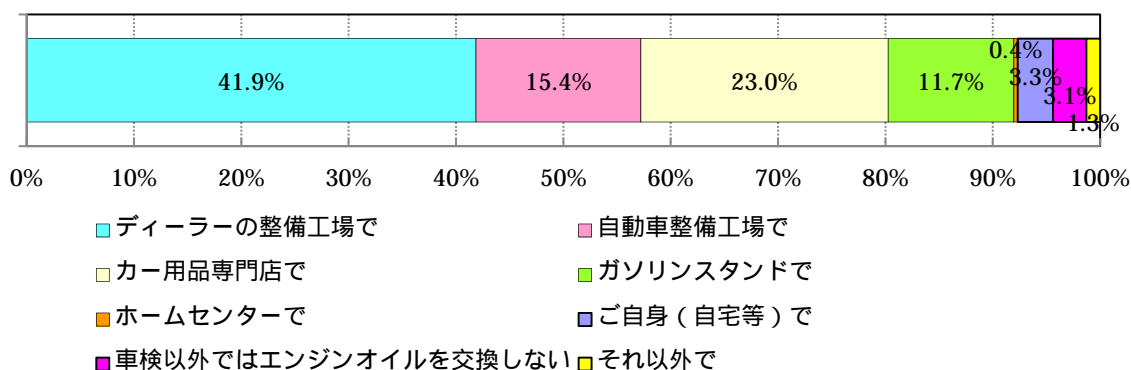
調査名	クルマのオイルに関するアンケート
対象者	・全国在住の 20 歳以上の男女 ・普通免許保有者かつご自身名義のクルマ保有者
調査項目	・オイル交換実施頻度 ・オイル交換実施先 ・オイル選定者 ・オイル検討・選定の重視点 ・API 規格、ILSAC 規格の品質グレード、粘度グレード等の認知度
サンプル数	600
実査期間	平成 25 年 10 月 24 日～10 月 28 日
調査方法	インターネット調査

Q1. どれくらいの頻度で車のエンジンのオイル交換をしていますか。(1つ選択)



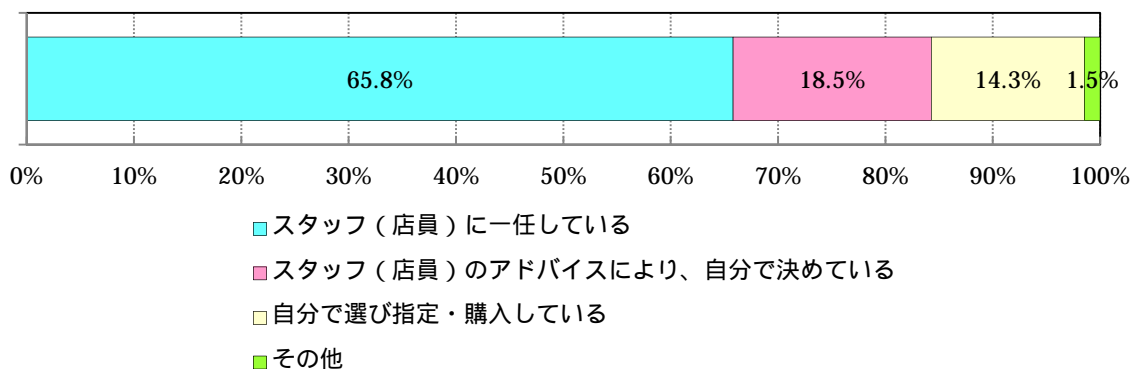
「6ヵ月に1回程度」が41.7%で最も高く、次いで「1年に1回程度」の21.7%、「2年に1回程度」の9.2%と続いた。1年以内が全体の76.3%を占めている。

Q2. 車検を除き、エンジンのオイル交換はどちらですることが最も多いですか。(1つ選択)



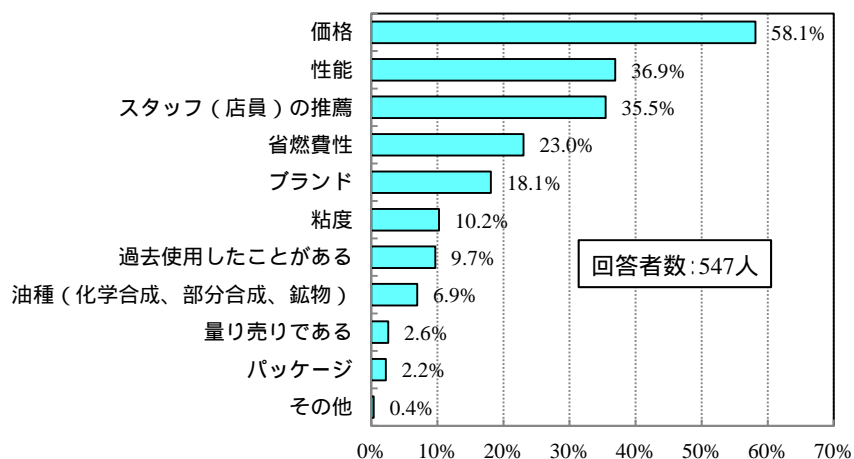
「ディーラーの整備工場」が41.9%で最も高く、次いで「カー用品専門店」の23.0%、「自動車整備工場」の15.4%、「ガソリンスタンド」の11.7%と続いている。

Q3. エンジンオイルのメーカーや粘度などは、どのように決めていますか。(1つ選択)



「スタッフ(店員)に一任している」が65.8%で最も高く、次いで「スタッフ(店員)のアドバイスにより、自分で決めている」の18.5%、「自分で選び指定・購入している」の14.3%と続いている。

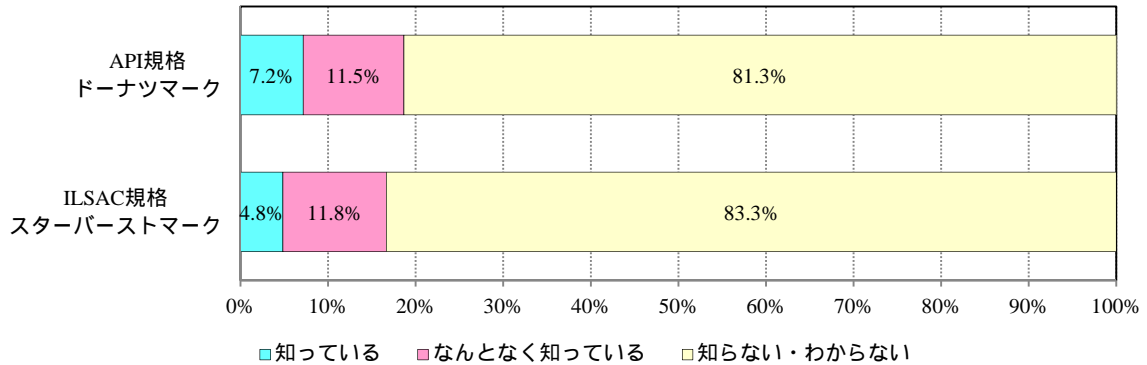
Q4. エンジンオイル検討の際、重視する点をすべてお知らせください。(複数選択)



「価格」が58.1%で最も高く、次いで「性能」の36.9%、「スタッフ(店員)の推薦」の35.5%、「省燃費性」の23.0%と続いている。

Q5-1. オイル缶に API 規格ドーナツマークが表示されていることをご存知ですか（1つ選択）

Q5-2. オイル缶に ILSAC 規格スターバーストマークが表示されていることをご存知ですか（1つ選択）



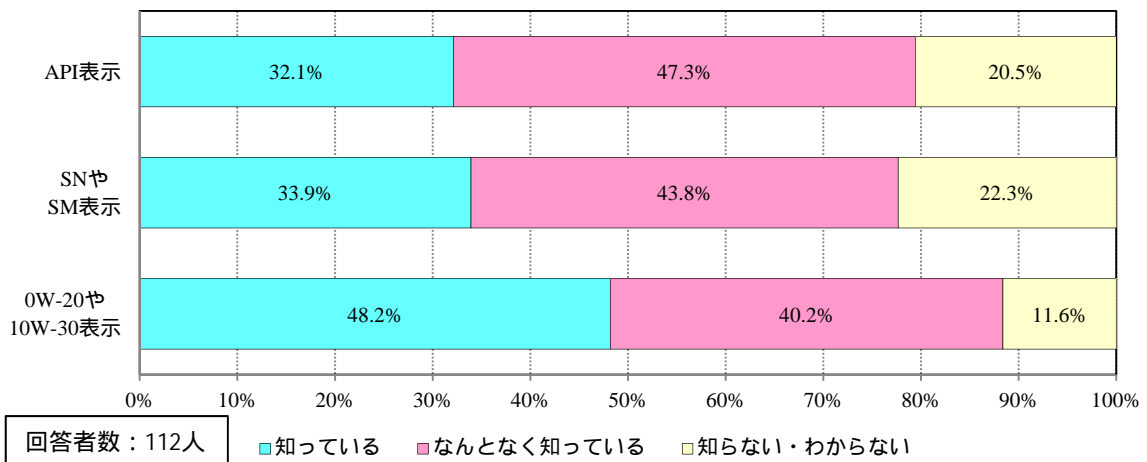
API 規格ドーナツマーク認知度は、「知っている」と「なんとなく知っている」合わせて 18.7%、ILSAC 規格スターバーストマーク認知度は、「知っている」と「なんとなく知っている」合わせて 16.6%

Q5-1 のドーナツマーク表示を「知っている」と「なんとなく知っている」人を対象（回答数：112 人）

Q6-1. ドーナツマークの中に API と表示されていることをご存知ですか（1つ選択）

Q6-2. ドーナツマークの中に SN や SM などが表示されていることをご存知ですか（1つ選択）

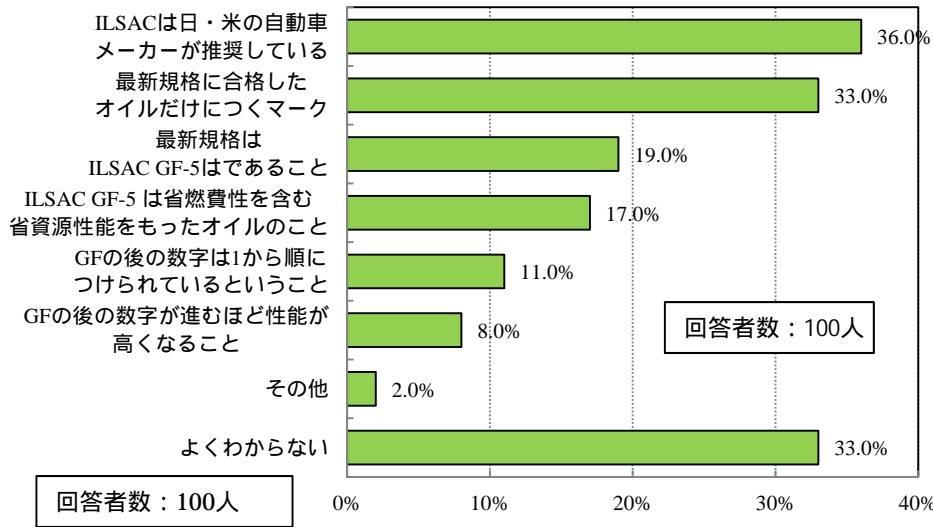
Q6-3. ドーナツマークの中に 0W-20 や 10W-30 などが表示されていることをご存知ですか（1つ選択）



API 表示、SN や SM の表示の認知度は、ほぼ大差なく「知っている」と「なんとなく知っている」合わせて約 80%、SAE “ 0W-20 ” や “ 10W-30 ” の認知度は約 90%

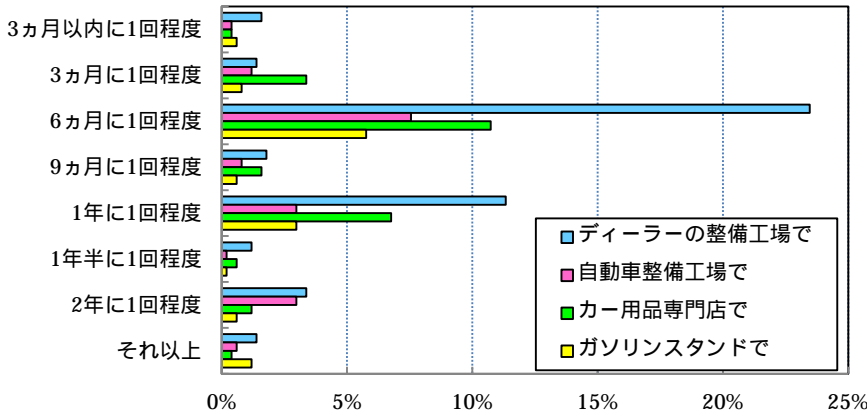
Q5-2 のスターバーストマーク表示を「知っている」と「なんとなく知っている」人を対象（回答数：100 人）

Q7. スターバーストマークについてのことで当てはまることを全てお答えください。（複数選択可）

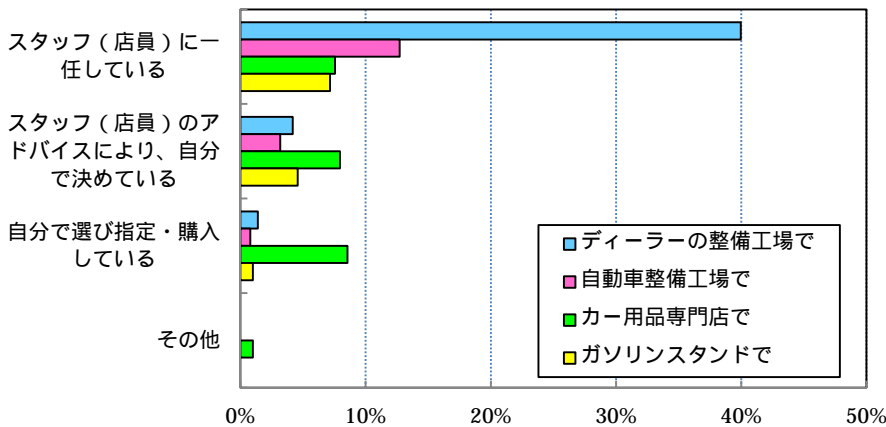


「ILSAC は日・米の自動車メーカーが推奨している」が36.0%で最も高く、次いで「最新規格に合格したオイルだけにつくマークであること」の33.0%と続いている。また、「よくわからない」が33.0%

オイル交換場所とオイル交換の頻度及びオイル選定理由によるクロス集計



「ディーラーの整備工場」で「6ヵ月に1回程度」の回答が最も多く、次いで「ディーラーの整備工場」で「1年に1回程度」、「カー用品専門店」で「6ヵ月に1回程度」と続いている。



「ディーラーの整備工場」で「スタッフ(店員)に一任している」との回答が大半を占めた。

以上

JALOS 技術講習会「入門コース・潤滑油の基礎知識」開催のご案内

先月号でもお知らせいたしましたが、平成 26 年度 JALOS 講習会「入門コース・潤滑油の基礎知識」を下記の日程で開催いたします。

この講座は潤滑油と初めて係わりを持たれ、その効果的な使い方についてこれから取り組んでいかれる方々を対象とした体験学習講座です。スタートのうちに習得しておくべき潤滑油の最新の基礎知識と最も大切な好奇心について、少人数制による講義および技術試験機関ならではのユニークな実技体験を通じてわかり易く学んでいただきます。

先進的な知識と貴重な体験を修得されるために、奮ってご参加されることをお勧めいたします。

ご好評につき、2クラスの開催を予定しております。(A日程は定員となりました。)

【講座概要】

受講対象者：潤滑油関係・新入社員クラスの方（事務系、技術系は問いません）

日 程：~~平成 26 年 5 月 20 日（火）、21 日（水）（A 日程）~~

平成 26 年 6 月 18 日（水）、19 日（木）（B 日程）

定 員：各 20 名（先着順）

項 目：【講義】 潤滑油の基礎知識

潤滑油の種類と品質、使い方

【体験】 潤滑油の体験研修

受 講 料（テキスト代、消費税を含みます。）

：正 会 員 ￥18,000 賛助会員 ￥24,000

特別会員 ￥21,000 一 般 ￥30,000

会 場：【第 1 日目・講 義】日本化学会 化学会館（東京都千代田区）

【第 2 日目・体験研修】潤滑油協会 技術センター（千葉県船橋市）

講 師：青山 昌二 氏（元出光興産株式会社 潤滑油部）

林 健司 氏（コスモ石油ルブリカンツ株式会社 技術部 技術 2 グループ グループ長）

当協会 技術センター職員



【受講申込み先および問合せ先】

一般社団法人 潤滑油協会・JALOS 技術講習会担当

TEL 047-433-5181

FAX 047-431-9579

URL <http://www.jalos.or.jp/>



詳細につきましては、同封の開催案内をご覧ください。

JALOS 技術講習会「初級コース 試験・分析方法の体験研修」開催のご案内

平成 26 年 7 月 17 日（木）18 日（金）の 2 日間にわたり、下記の要領にて JALOS 技術講習会「初級コース 試験・分析方法の体験研修」を開催します。この講座では、潤滑油の選定及び使用中の管理において必要不可欠な油の分析試験、評価手法の基礎について体系的に解説致します。試験成績書などに示されているデータから得られる情報を正しく理解し、サンプルの状況を適切に把握するためには、試験のやり方とその結果が示す意味をしっかりと身に付けておくことが大切です。

さらに、JALOS 技術センターの試験設備を用い、分析試験を実体験していただくとともに、分析試験、解析、評価までの流れについて理解を深めていただきます。多数の方が受講されるようご案内いたします。

【講座概要】

受講対象者：潤滑剤関係業務（経験 1～3 年程度の方）

日 程：平成 26 年 7 月 17 日（木）、18 日（金）

定 員：18 名（先着順）

項 目：【講義】 試験・分析方法と目的

【体験】 一般物性の体験研修

機器分析の見学研修

エンジン試験の見学研修

受 講 料（テキスト代、消費税を含みます。）

：正 会 員 ￥16,000 賛助会員 ￥22,000

特別会員 ￥19,000 一 般 ￥28,000

会 場：一般社団法人 潤滑油協会 技術センター（千葉県船橋市）

講 師：JX 日鉱日石エネルギー株式会社 研究開発本部 中央技術研究所 試験分析センター
アシスタントマネージャー（試験管理担当） 中野 幸弘 氏

及び潤滑油協会 技術センター職員



【受講申込み先および問合せ先】

一般社団法人 潤滑油協会 技術講習会担当 TEL 047-433-5181 FAX 047-431-9579



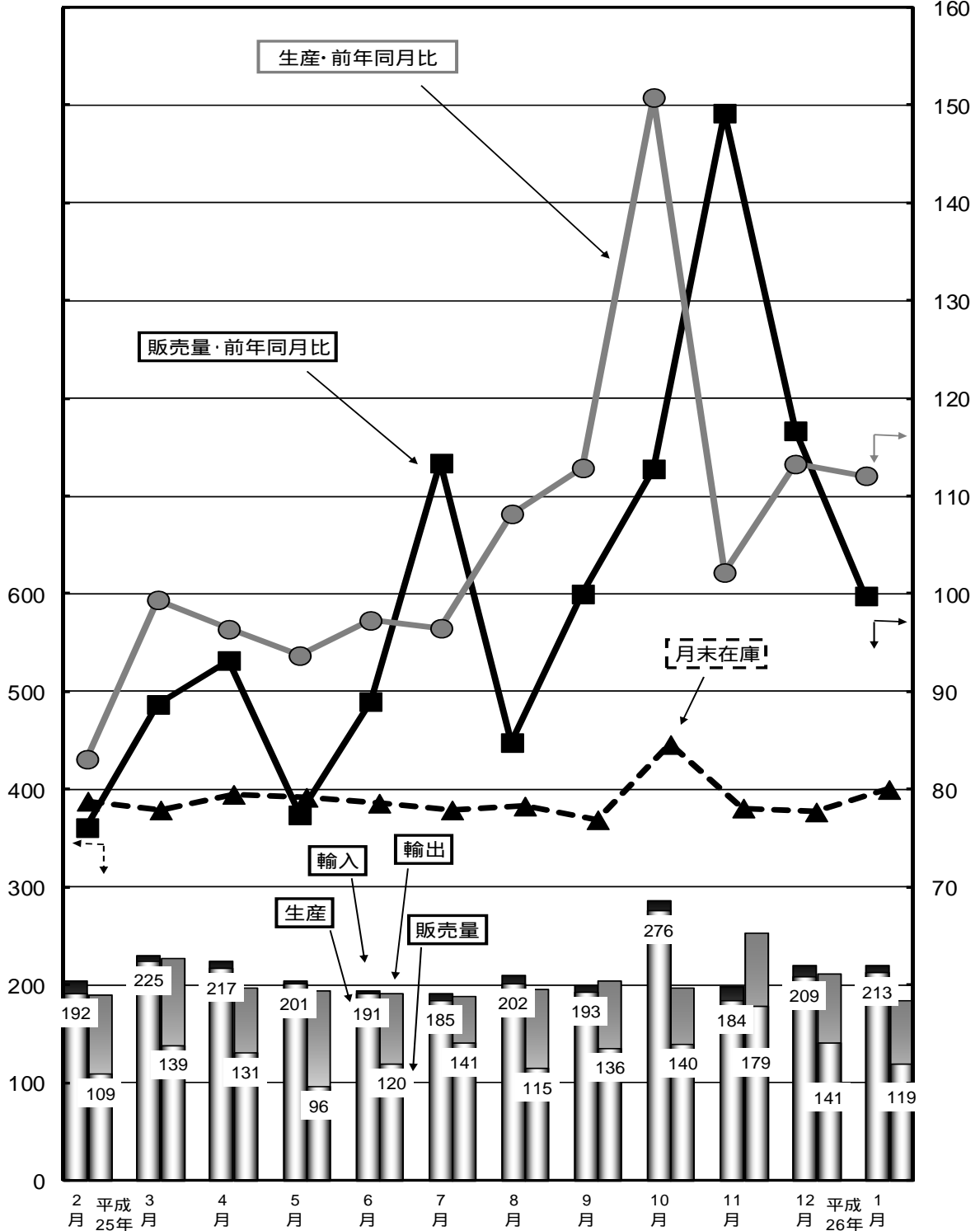
詳細につきましては、同封の開催案内をご覧ください。

潤滑油需給統計

1月の生産量は213千kLで前年同月比で12.1%上回り、販売量は119千kLで0.2%下回った。

(千kL)

(%)



出典：経済産業省 資源・エネルギー統計月報（注：棒グラフ上段の数字は生産量、下段の数字は販売量）

潤滑油需給統計（時系列表）

（単位：kL）

年 月	生産	輸入	国内向販売	輸出	在庫	生産部門	
						生産部門	販売部門 (製造業者・輸入業者)
平成23年	2,578,127	120,595	1,710,348	816,536	363,370	205,288	158,082
24	2,379,407	119,156	1,594,020	737,458	375,104	205,545	169,559
25	2,464,628	105,574	1,565,813	870,924	377,393	201,362	176,031
平成23年度	2,480,911	114,388	1,694,714	806,749	362,173	208,251	153,922
24	2,339,475	118,480	1,527,266	764,447	378,830	196,711	182,119
平成24年10～12月	547,562	29,592	364,586	163,351	375,104	205,545	169,559
平成25年1～3月	607,018	29,885	368,503	231,653	378,830	196,711	182,119
4～6	609,493	16,498	346,923	237,323	386,480	203,376	183,104
7～9	579,130	22,129	390,829	198,179	369,083	188,829	180,254
10～12	668,987	37,062	459,558	203,769	377,393	201,362	176,031
平成24年11月	179,990	4,730	119,818	45,037	377,252	206,596	170,656
12	184,331	11,616	120,772	67,311	375,104	205,545	169,559
平成25年 1月	189,817	12,269	119,670	60,802	387,681	207,503	180,178
2月	191,823	12,172	109,370	81,205	388,290	209,887	178,403
3月	225,378	5,444	139,463	89,646	378,830	196,711	182,119
4月	217,251	8,345	131,127	67,207	395,452	214,146	181,306
5月	201,468	4,456	96,068	99,348	392,189	206,032	186,157
6月	190,774	3,697	119,728	70,768	386,480	203,376	183,104
7月	184,621	6,559	140,701	47,452	378,664	199,457	179,207
8月	201,786	8,409	114,573	81,318	383,264	199,226	184,038
9月	192,723	7,161	135,555	69,409	369,083	188,829	180,254
10月	276,281	11,185	139,880	58,039	445,909	271,176	174,733
11月	183,896	15,360	178,737	75,062	380,710	201,617	179,093
12月	208,810	10,517	140,941	70,668	377,393	201,362	176,031
平成26年 1月	212,771	6,579	119,382	65,358	400,080	216,818	183,262
前年同月比 (%)	112.1	53.6	99.8	107.5	103.2	104.5	101.7

「国内向販売」は調査対象が調査対象以外（消費、卸売又は小売事業所）へ販売した数量（理論値）を示す

製造業者・輸入業者の消費者・販売業者向販売、在庫内訳

（単位：kl）

区 分	消費者・販売業者向販売 (前年同月比 %)	在 庫 (前年同月比 %)
潤滑油計(H26年1月)	186,575 (105.4)	183,262 (101.7)
ガソリンエンジン油	32,510 (110.1)	23,962 (117.0)
ディーゼルエンジン油	16,187 (89.2)	9,573 (109.6)
その他 車両用	15,653 (112.8)	13,920 (100.5)
船舶用エンジン油	12,345 (88.9)	9,596 (100.3)
機 械 油	35,694 (106.8)	28,628 (130.5)
金 属 加 工 油	8,213 (90.5)	9,830 (96.0)
電 気 絶 縁 油	4,372 (102.7)	2,739 (114.7)
その他特定用途向け	39,317 (114.6)	60,623 (95.0)
その他	22,284 (108.4)	24,391 (83.5)

出典：経済産業省 資源・エネルギー統計月報

会員からのご要望に基づき、潤滑油油種別販売量等として2014年2月号より「製造業者・輸入業者の消費者・販売業者向販売、在庫内訳」を追加致しました。

平成 26 年経済センサス - 基礎調査及び商業統計調査の実施について

この度、経済産業省大臣官房調査統計グループ構造統計室より、平成 26 年 7 月に「経済センサス - 基礎調査」と「商業統計調査」を一体的に実施する旨の周知要請がありましたのでお知らせいたします。

経済センサス - 基礎調査は、我が国の全ての産業分野における事業所及び企業の基本的構造を全国及び地域別に明らかにするとともに、事業所・企業を対象とする各種統計調査の実施のための母集団情報を整備することを目的として実施します。

商業統計調査は、我が国における商業の実態を明らかにし、商業に関する施策の基礎資料を得ることを目的として実施します。

これらの 2 つの調査は、正確な統計を作成するため、統計法（平成 19 年法律第 53 号）に基づいた報告義務のある調査（基幹統計調査）として実施されます。

調査結果は、我が国の社会の発展を支える基礎資料として、国の各種行政施策をはじめ、地域の産業振興や商店街の活性化などの地方公共団体における行政施策、さらには民間企業における経営計画の策定など、様々な分野で活用されています。

- 問い合わせ先 -

総務省統計局統計調査部経済基本構造統計課（TEL：03-5273-1105）

経済産業省大臣官房調査統計グループ構造統計室（TEL：03-3501-0386）

協会の動き

ISO 資格制度委員会に参画

2 月 21 日（金）に機械学会で開催された、一般社団法人 日本トライボロジー学会主催による「ISO 資格制度委員会」に参画しました。

第 4 回 工業用油分科会

2 月 26 日（水）に航空会館において、第 4 回 工業用油分科会（主査：ユシロ化学工業(株) 小野 肇氏）を開催しました。議事内容は次のとおりです。

(1) 25 年度報告書案について

(2) その他

ISO・JIS 試験法分科会に参画

2 月 26 日（水）に開催された、石油連盟主催による「ISO・JIS 試験法分科会」に参画し、ISO・JIS 原案について審議しました。

第 4 回 耐荷重能試験方法タスクフォース

2 月 28 日（金）に航空会館において、第 4 回 耐荷重能試験方法タスクフォース（主査：SVC 東京(株) 中島 貴氏）を開催しました。議事内容は次のとおりです。

(1) JIS 耐荷重能試験方法改正について

(2) その他

危機管理/安全衛生担当者向けセミナーに参加

2 月 28 日（金）にベルサール八重洲で開催された、新建新聞社リスク対策.com 編集部主催による

「危機管理/安全衛生担当者向けセミナー」に参加し、“化学物質を扱う現場の安全管理～緊急時の対応手法と日常作業における安全対策～”について傍聴し、情報収集しました。

エンジン試験専門委員会に参画

3月7日(金)に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「エンジン試験専門委員会」に参画しました。

試験分析分科会に参画

3月10日(月)に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「試験分析分科会」に参画しました。
潤滑油分科会に参画

3月12日(水)に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「潤滑油分科会」に参画しました。
第13回 JASO ディーゼル油規格改正 TF に参画

3月17日(月)に石油連盟で開催された、石油連盟・自動車工業会主催による「第13回 JASO ディーゼル油規格改正 TF」に参画しました。

第2回 潤滑油環境対策委員会

3月18日(火)に航空会館において、第2回 潤滑油環境対策委員会(委員長:東京工業大学教授 益子 正文 氏)を開催しました。議事内容は以下のとおりです。

- (1) 平成25年度報告について
- (2) 平成26年度実施計画について
- (3) その他

製品部会に参画

3月19日(水)に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「製品部会」に参画しました。

ISO・JIS 試験法分科会に参画

3月20日(木)に開催された、石油連盟主催による「ISO・JIS 試験法分科会」に参画し、ISO・JIS 原案について審議しました。

今後の予定

理事会

4月24日 アルカディア市ヶ谷

JALOS 技術講習会

「入門コース・潤滑油の基礎知識」

5月20日, 21日(A日程) 前掲

6月18日, 19日(B日程)

定時社員総会

5月22日 アルカディア市ヶ谷

JALOS 技術講習会

「初級コース 試験・分析方法の体験研修」

7月17日, 18日 前掲

禁無断転載

発行日 平成26年3月25日

発行所 一般社団法人 潤滑油協会

〒273-0015

千葉県船橋市日の出2-16-1

TEL 047-433-5181(代表)

FAX 047-431-9579

印刷所 株式会社みつわ